



湾岸・アラビア半島地域ニュース

カタール：2007年経済成長見通しと不動産価格の高騰

(10月22日付現地各紙)

1. カタール・ナショナル・バンク (QNB) が発表した GDP 及びインフレ予測。
 - (1) GDP 及び経済成長率：

カタール経済は、引き続き天然ガス及び関連産業によって牽引され、2007年のGDPは前年比17.8%増の2,261億カタール・リヤル (QR) (約7兆2,352億円)、2008年には前年比16.5%増の2,635億QR (約8兆4,320億円) となり、国民一人当たりGDPは2008年末までに68,467米ドルに達し、世界で最も裕福な国家の一つとなる。
 - (2) GDP に締める石油ガス部門の比率：

2007年に石油ガス部門のGDPに占める割合は60%に上る見込み。これは、石油価格の上昇圧力及び石油ガス及び関連商品の増産に起因するものである。他方、カタール経済の多角化政策を受け、今後数年のうちにGDPに占める非石油ガス部門の割合が拡大し、石油ガス部門の割合は2008年に58%に低下することが見込まれる。
 - (3) インフレ：

カタールのインフレは急速に上昇している。2001年までの5年間の平均インフレ率は2.6%だったのに対し、2006年までの5年間に平均6%となった。2007年上期のインフレ率は10.1% (2006年同期11.8%) で、2007年の年間インフレ率は7.5%から10%の間となろう。ここ数年のインフレ上昇の要因は、急速に増大する住宅費にあり、2007年上期に住宅費は21.7%増加した (2006年26%増、2005年26.3%増)。建設コストの急増及び資材価格の高騰により、住宅市場は全体的に多大な価格上昇圧力にさらされている。
 - (4) 試算前提：カタール産原油価格は1バーレル=平均61米ドル、2007年上半期原油生産量は80万B/D。2007年LNG輸出量は2,900万トンに拡大 (2006年、2,510万トン)。非石油ガス部門のGDPが2007年に22.5%増の897億QR (約2兆8704億円) に拡大。
2. 不動産賃貸料の高騰 (クウェイト金融センター報告による)
 - (1) ドーハの不動産賃貸料は2004年11月 - 2006年11月の2年間にGCC諸国の諸都市の中で最高の高騰を記録した。
 - (2) カタールでは、2010年までに約25万戸の住宅物件が必要となる一方、供給数は約24.4万戸にとどまるだろう。需要数約25万戸の75%に相当する約18.7万戸が外国人居住者のために必要となるだろう。
 - (3) オフィス用物件についても供給が追いつかず、ドーハ中心部のビジネス街においては賃貸料が2005年8月以降37%上昇した。その主な原因として、外国企業のカタール進出の増加が挙げられる。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799